

令和2年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	110	伝統文化を継承、発展させ、新たな文化・芸術を創造する
施策	111	郷土の歴史・文化を継承し、発展させる
施策の目標	すみだの歴史や文化に区民がふれることで、郷土に対する理解・愛着が深まり、さらに区民が将来にわたり伝統文化を継承、発展させ、文化財が大切に保護されています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「伝統文化が保護、継承されている」と思う区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	71.6				77.0					80.0
実績										
指標名	「墨田区の歴史や文化を学んでいる」区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	24.1				39.0					50.0
実績										

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
<p>・北斎作品(浮世絵)は大変脆弱であり、文化財保存の観点からも長期の展示は不可能であることから、円滑な事業運営や運営経費圧縮のためにも可能な限り自館の収蔵資料数を増やせるよう収集に努めていく。</p> <p>すみだ北斎美術館については、平成28年11月に開館し、来館者数は目標を大きく上回っている。今後も、北斎の魅力を伝える展覧会事業やイベント等の充実を図っていく必要がある。</p> <p>また、平成26年より開始した寄付キャンペーンについては、当初の目標額5億円を達成することができた。今後も、美術館の管理運営、資料収集等に充てることを目的に、継続して実施する。</p> <p>・大江戸すみだ職人展は、来場者を増やすことを目的に、特に30年度から、北斎美術館に実施場所を変更しプロモーションを工夫したことにより、来場者の客層や数に変化があったと感じている。よって、現在の実施方法を更にブラッシュアップし、新型コロナウイルス対策をできる限り講じながら事業を継続していきたい。</p>	H29	267,520
	H30	269,690
	R1	364,354

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	<p>・すみだ北斎美術館は、新型コロナウイルスの影響により目標値を下回ったものの、安定した来館者数を確保することができ、ここ開館後4年間の合計では、目標に近い数字を残した点を評価した。今後については、来館者数を現状よりも落ち込ませないよう、努力していきたい。そのためには、企画展や教育普及活動等にて、よりすみだと北斎の魅力を発信していく必要がある。また、令和元年度の寄付キャンペーンは、複数のふるさと納税サイトでの寄付募集を開始したことにより、目標額を大きく上回る約3億8,000万円の寄付金を集めた点を評価した。</p> <p>・大江戸すみだ職人展は、実施場所の変更やプロモーションの工夫(北斎美術館における実施、職人による実演や工芸品展示のほか、職人・制作品を紹介するパネルの展示と工芸体験の実施など)により、従来より多くの方に関心を持っていただけたと感じており、それが3,802人の来場者数に繋がった。</p>

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
<p>・「すみだ北斎美術館」を区の文化創造や地域活性化につながる施設になるよう、資料の収集保存、展示、情報提供、教育普及の事業活動を通じて地域文化の継承と発展の場として運営するため、今後も計画的な資料収集と美術館運営及び北斎に関するPRを行っていく必要がある。</p> <p>・大江戸すみだ職人展は、平成30年度、令和元年度の実施結果が良好だったことから、現状をベースにしながさらには工夫を凝らし、コロナ対策を講じながら実施を継続したい。</p>	
【今後の具体的な方針】	
<p>・「すみだ北斎美術館」の円滑な事業運営を行うとともに、引き続き資料収集や寄付キャンペーンを行っていく。また、東京2020オリンピック・パラリンピックを見据えて、北斎及び北斎美術館について、国内外に向けて情報発信を行っていく。</p> <p>・大江戸すみだ職人展は、来場者と職人の距離が近いことがこの事業の大きな強みであるが、新型コロナウイルスの現下の状況から、この利点を生かすことが困難である。今後は職人展の魅力を損なわない実施方法を、参加する職人同士で模索しながら事業展開を行う。</p>	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
						評価対象年度
1	すみだ北斎美術館管理運営	185,279	4,369	189,648	171,000	現状維持
					157,034	令和元年度
2	すみだ北斎美術館寄付 キャンペーン事業	177,675	8,738	200,727	180,000	現状維持
					379,921	令和元年度
3	大江戸すみだ職人展事業	1,400	3,495	4,895	2,000	現状維持
					2,340	令和元年度
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

令和2年度 事務事業評価シート

施 策	111	郷土の歴史・文化を継承し、発展させる				部内優先順位
事 業 名	すみだ北斎美術館管理運営費				1	
目 的	平成28年11月に開館したすみだ北斎美術館の適切な管理運営に努め、PR事業を始め、資料収集、すみだ北斎のPR及び施設の充実を図る。				主管課・係(担当)	
					文化芸術振興課文化芸術担当 03-5608-6115	
対 象 者	区民及び本区への来街者、北斎に関心のある層					
根拠法令 関連計画	すみだ北斎美術館の管理運営に関する条例及び同施行規則					
実施基準	区独自基準	実施方法	全部委託	人員体制・委託先	墨田区文化振興財団・丹青社共同企業体	
事業内容	本区で生まれた世界的絵師・葛飾北斎を区民の誇りとして顕彰する「すみだ北斎美術館」の管理運営を行い、区民が文化・芸術にふれる機会を創出するとともに、文化・産業・観光等の地域活性化の拠点として展開する。					
経 過	開始年度	平成28年度	終了予定	未定		
	平成27年度 指定管理者決定 平成28年度 建築竣工、11/22開館 平成29年度 開館1年目の目標来館者数20万人達成(4月) 平成30年度 来館者数50万人達成(7月) 令和元年度 来館者数75万人達成(1月)					
議会質問 の 状 況	<p>■平成30年11月 第4回定例会</p> <p>Q 来館者数、観覧料収入が開館当初と比べ減ってきている。平成29年度には月平均2万人だった来場者が、平成30年には1万5,000人を割り込む結果となっている。10年先、20年先にはどうなってしまうのか。このままでは区財政の重荷になるおそれが予想されるが、どのような対策が必要と考えているのか。</p> <p>A 平成28年11月の開館から2年が経過し、これまでに56万人以上の方にご来館いただいている。一般的に美術館の来場者は開館初年度をピークとして年度を経るごとに減少しますが、一定のところ安定する傾向にあり、すみだ北斎美術館についても同様の傾向にあると考えている。今後については、他館からの重要作品の借り入れ、魅力的な企画展の実施、常設展示の工夫などにより来場者の確保に努めるとともに、支出の削減を図り、効率的な館の運営を指定管理者に求めていく。</p>					
そ の 他 特 記 事 項	<p>(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)</p> <p>新型コロナウイルスの影響</p> <p>・【会期変更】大江戸歳事記:6月30日(火)から8月30日(日)まで</p> <p>・(仮称)新収蔵品展:9月15日~11月8日</p> <p>・GIGA・MANGA:11月25日~1月24日</p> <p>・絵師の筆づかい:2月9日~4月4日</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により企画展予定は未定</p>					

予算・決算額推移(千円)		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算現額(事業費)			99,249	142,227	200,079	190,640	163,439
決算額(令和2年度は見込み)			87,439	137,512	195,805	185,279	163,439
財 源	国						
	都						
	その他		18	32,684	99,928	89,285	60,353
一般財源		0	87,421	104,828	95,877	95,994	103,086
執行率(%)		#DIV/0!	88.1%	96.7%	97.9%	97.2%	100.0%

予算・決算の内訳 (単位: 千円)									
平成30年度 (決算)			令和元年度 (決算)			令和2年度 (予算)			
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額	
報償費	資料収集委員会外謝礼	188	報償費	資料収集委員会外謝礼	246	報償費	資料収集委員会外謝礼	304	
需用費	消耗品購入	209	需用費	消耗品購入	303	需用費	消耗品購入	340	
委託料	指定管理料	155,365	委託料	指定管理料	155,400	委託料	指定管理料	162,381	
備品購入費	資料取得経費	39,928	備品購入費	資料取得経費	29,286				
事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	メディアへの掲載数				単位	件	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
		60	R7	目標	60	60	60	60	
				実績	73	102	78	93	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		目標	60	60	60	60	60	60	
		実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由								
	北斎美術館のメディアへの掲載数で、宣伝・広報の成果を図る指標となるため。目標値については、来館者数が安定していく中でも、高い注目を集めるべく本数値に設定した。								
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	すみだ北斎美術館への来館者数				単位	人	
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1		
95,000		R7	目標	80,000	321,000	220,450	171,000		
			実績	177,707	262,634	177,188	157,034		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	目標	172,000	95,000	95,000	95,000	95,000	95,000		
	実績								
指標の選定理由及び目標値の理由									
区民をはじめ、区外及び海外からの来訪者が、どれだけ北斎の魅力を体感したかを図る指標となるため。目標値については、開館当初に想定していた、開館3年目以降の来館者数を設定した。									

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	来館者数は、新型コロナウイルスの影響で臨時休館(20日間)を余儀なくされ、令和元年度目標を下回ったものの、過去4年間の合計では、目標数値に近い数値となっていることから、クリアに等しいと評価している。引き続き適切な管理運営に努めていく。また、来年の2020東京オリンピック・パラリンピックを見据え、企画展等を充実していく必要がある。

課題・問題点
管理運営業務は要求水準どおりに適切に実施されているが、要求水準に掲げる公開承認施設の認定に向けた活動を着実に実施する必要がある。 入館者数を確保していくため、広報や企画展の充実を求めるとともに、支出を抑え、安定した館の運営を行っていく必要がある。

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	寄付キャンペーン寄付金額				単位	千円
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		145,000	R7	目標	150,000	145,000	200,000	180,000
				実績	232,102	267,902	155,836	379,921
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	250,000	145,000	145,000	145,000	145,000	145,000	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	北斎美術館の管理運営、資料収集、展覧会事業等の充実を図るには、寄付を募る必要があるため。目標値については、これまでの実績と管理運営費や資料収集等に要する費用見込みを基に設定。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	すみだ北斎美術館に対する寄付件数				単位	件
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
3,000		R7	目標	3,000	3,000	3,000	3,000	
			実績	3,752	4,222	2,544	5,409	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
北斎美術館事業を推進していく上では、墨田区内外からの継続した支援(寄付)が必要であることから、目標値については、寄付件数を支援者数と考慮して設定。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	令和元年度は、寄付目標額を大きく上回り、約3.8億円の寄付を募ることができた。引き続き、北斎美術館の管理運営、資料収集、展覧会事業等の充実を図るため寄付募集を実施する必要がある。

課題・問題点
北斎美術館の管理運営や北斎の資料収集等には、毎年度多額の費用が発生するため、それらの財源として、寄付キャンペーンを継続して実施する必要がある。

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	区内町会へのポスター配布数				単 位	枚
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1,700	R7	目標	1,700	1,700	1,700	1,700
				実績	1,700	1,700	1,700	1,700
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	<p>より多くの方に広く告知することが来場者数の増加につながるため。 令和元年度は、限られた予算の中で効果的なPRを行うべく広報活動の見直しを行った。具体的には、区民への周知については、町会・施設を中心に目に留まるポスターの内容を工夫して開催告知することに注力しつつ、区広報媒体を活用することによって従来よりもコストを抑えるようにした。したがってポスター配布は継続することとしたことから、以降の活動指標を区内町会へのポスター配布数に変更した。</p>							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	展示会場への来場者数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
2,500		R7	目標	8,000	8,500	8,500	2,000	
			実績	8,769	6,440	3,802	2,340	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
<p>展示会場への来場者数が広くPRできたことを示す指標となるため。 平成30年度に開催会場をすみだまち処からすみだ北斎美術館(講座室)へ変更した。従来はまち処全体の来場者数での集計であったが、美術館(講座室)のみの来場者数集計になったこと、開催期間日数の変更に伴い、令和元年度から目標値についても変更した。</p>								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	<p>実施場所やプロモーションを工夫したことで、より多くの方に興味を持っていただくことができ、参加した職人も手ごたえを感じている。来場者と職人の距離が近いことがこの事業の大きな強みであるため、今後はその点をより生かした事業展開をしていきたい。</p>

課題・問題点
<p>産業振興課や地域教育支援課で実施されている事業との差別化を図りながら、実施方法の一層の工夫により、老若男女を問わずより幅広く興味を持っていただくことが課題である。 また、今後はコロナ対策を徹底するために、参加する職人同士が可能な限りの具体策を考え準備を整えたいと、実施していく必要がある。</p>

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	開催告知チラシの配布戸数				単位	戸
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		9,000	R7	目標	30,000	30,000	30,000	30,000
				実績	31,100	31,100	31,100	31,100
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	31,000	31,000	31,500	31,500	31,500	31,500
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	より多くの方に広く告知することが来場者数の増加につながるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	展示会場への来場者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		9,000	R7	目標	8,000	8,500	8,500	2,000
				実績	8,769	6,440	3,802	2,340
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
展示会場への来場者数が広くPRできたことを示す指標となるため。 平成30年度に開催会場をすみだまち処からすみだ北斎美術館(講座室)へ変更した。従来はまち処全体の来場者数での集計であったが、美術館(講座室)のみの来場者数集計になったことと、開催期間日数の変更に伴い、令和元年度から目標値についても変更した。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
現状維持		実施場所やプロモーションを工夫したことで、より多くの方に興味を持っていただくことができ、参加した職人も手ごたえを感じている。来場者と職人の会場での距離が近いことがこの事業の大きな強みであるため、今後はその点をより生かした事業展開をしていきたい。						

課題・問題点	
<p>産業振興課や地域教育支援課で実施されている事業との差別化を図りながら、実施方法の一層の工夫により老若男女を問わずより興味を持っていただくことが課題である。</p> <p>また、今後はコロナ対策を徹底するために、参加する職人同士が可能な限りの具体策を考え準備を整えたい。実施していく必要がある。</p>	